

## 街角を歩く

診療の合間に、ちょっと街を歩いてみませんか。  
そこには、加賀百万石の文化、能登の自然、加賀の伝統が息づいて  
います。このコーナーは、そんな街角で見つけた小さな姿を、  
みなさんにお届けするものです。編集部から、みなさんへ。  
小さな発見が、きっと心をリフレッシュさせることでしょう。

### 第 回 金沢市民芸術村の巻

石川県が全国に誇れる文化財産というとは何でしょう？ それも芸能の世界で・・・皆さんは何を思い浮かべます？ アンサンブル金沢、それとも無名塾？ 多分、人口110万の小さな県としては、両者とも破格の存在でしょう。そうそう、茶屋街が守る伝統芸能も外せない。

ところで私はと言うと、コンサートが始まると、なぜかしら睡魔に襲われてしまう。無名塾の方は、さすがに居眠りはしないが、どこかで緊張を強いられる自分がいる。会場を出た後、「よかったね」の次に「疲れたねえ」と言葉が付いてくる。

そんな私が最近ハマっているのが、金沢市民芸術村。旧大和紡績工場の跡地だが、建物そのものが立派な文化遺産と言える。余談だが、本多町歴博の別館には、当時の製糸機械が展示されている。祖母の時代の香りがする場所だ。



写真は、芸術村の中にあるドラマ工房のPIT2である。ここでは演劇が不定期に開催されている。内部に一步入ると、街中とは明らかに異なる

る気を膚で感じる。煉瓦作りの工場が持つ独特の冷気と、一方で演じる者と観客が一体となって生み出す熱気。奇妙な調和が心地よい。「わが町～大野 女たち～」で描かれた昭和三十年代の大野。金石の濤々園（とうとうえん）で実際に起きた心中事件を題材とした「蜃気楼」。今でも思い出すと、背中がぞくぞくする。同じ目の高さで繰り広げられる等身大の世界。狂気さえも愛おしく、心を揺さぶられる。磨き抜かれた技術や透き通る声量の代わりに、ただひたむきに伝えようとする思いが降り注いでくる。

最近のお気に入りには「夢宇人」である。団員は10人くらいの小さな劇団なのだが、7,8年前より、弱小スポンサーとして観劇を続けている。最初は、何となく・・・今は、毎年の公演を心待ちにしている。

観劇のたびに、着実に成長していく姿を見るのが楽しい。夢宇人が演じる世界は、時代



劇団夢宇人 特別企画 in 岐阜県可児市

少女と

老女の

ホルカ

作◆古城+足 演出◆黒田百合



劇であり、ファンタジーであり、時に現代劇である。無名塾が提供する演劇を正統フランス料理とするなら、さしずめ B 級グルメのもてなしと言える。描く題材と時代は異なるが、一貫して描かれているのは、人間そのものだ。弱くて、ずるくて、そして見栄っ張り。だがなぜか愛しく切ない。そんな人の世界のやるせなさを描き続けている。Good !

(大平 政樹)